

資料2-3 (詳細)

学校における熱中症の事故事例調査

1. 背景・目的

学校現場の実態に則した手引き(案)を作成することを目的として、学校における熱中症の事故事例(特に死亡事故等)を調査する。学校における熱中症の事故報告書で指摘された課題や提言並びに判例で過失(安全配慮義務違反)を問われた学校管理上の課題や、学校現場における熱中症対策に関する課題等を整理する。

2. 実施方法

(1) 事故事例調査

ア. 調査対象

最初に、以下のデータベースや報告書等から、事故概要、事故発生要因、事故防止対策、課題/提言等の事項が得られると考えられる事例を抽出した。

1) 独立行政法人日本スポーツ振興センター

- ① 学校安全 Web 学校事故事例検索データベース¹
- ② 「熱中症を予防しよう」²
- ③ 「体育活動における熱中症予防 調査研究報告書」³

2) 「学校事故対応に関する指針」に基づく詳細調査報告書の横断整理(文部科学省、令和2年3月)⁴次に、上記2つの資料から抽出した事例に加え、事故の検証結果について詳細に記載されている以下の2つの事故報告書から、事故を防ぐための課題等の抽出を行うこととした。

- 3) (奈良県)生駒市市内中学生熱中症事故調査結果報告書(平成29年4月)
- 4) (愛知県)豊田市市内小学校児童死亡事故 調査委員会報告書(平成31年2月)
- 5) 学校現場における熱中症事故に関わる裁判の判例

イ. 課題等の抽出

ア. に示した調査対象から課題等を抽出するにあたっては、上記の情報源から得られる実際に起こった事故から得られた課題や教訓だけではなく、前述の日本スポーツ振興センターによる報告書に示されている「死亡事故判例から見る指導者の熱中症予防への配慮のポイント」も参考とすることとした。報告書に記載されている指導者の熱中症予防への配慮のポイントは以下のとおりである。

- ・練習場所や練習時間帯の選択
- ・練習開始前の体調への配慮
- ・練習開始後の体調不良の把握
- ・体調不良を把握した後にとるべき措置

¹ <https://www.jpnsport.go.jp/anzen/default.aspx?tabid=822>

² <https://www.jpnsport.go.jp/anzen/default.aspx?tabid=114>

³ https://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen_school/bousi_kenkyu/tabid/1729/Default.aspx

⁴ https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/20201005-mxt_kyousei02-1289303_2.pdf

(2)「学校現場における熱中症対策ガイドライン作成の手引き(仮称)」へ盛り込むべき項目

(1)で抽出した課題や提言及び判例で過失(安全配慮義務違反)を問われた学校管理上の課題等から手引き(案)に盛り込むべき項目を整理した。

3. 結果(中間報告)

(1) 事故事例調査

2.(1)ア.で示した学校での熱中症事故事例から、**事故概要**、**事故発生要因**、**事故防止対策**、**課題/提言**を整理した。

1) 独立行政法人日本スポーツ振興センター

① 学校安全 Web 学校事故事例検索データベース

学校事故事例検索データベースで、熱中症死亡障害事故事例について、以下のキーワードを用いて検索を行い、事故事例の抽出を行った結果、33件の死亡事故事例、3件の障害事故事例、計36件の死亡・障害事故事例の**事故概要**を得た。事故事例の抽出結果を別添資料1に示したが、被災した子供の年齢や事故の発生状況は分かるが、そこから事故防止対策や対策に向けた提言などについて直接的な情報は得ることができなかった。

検索キーワード：死亡事例の「死亡障害種」の項目で「**熱中症**」

障害事例の「災害発生時の状況」の項目で「**熱中症**」、「**脱水**」、「**炎天下**」

② 「熱中症を予防しよう」

独立行政法人日本スポーツ振興センターのパンフレット『熱中症を予防しようー知って防ごう熱中症ー』⁵において、学校管理下の熱中症事故に関する裁判事例、死亡事故事例、死亡事例の発生状況から課題/提言等の抽出を行った結果、1件の裁判例、6件の熱中症死亡事故事例(うち部活動5件、学校行事1件)が記載されていた。テニス部に所属する高校2年生の女子が練習中に熱中症を発症し重い障害が残った事故の判例では、部活動の顧問の義務として以下が述べられており、顧問が生徒の体調の変化に十分に配慮するとともに、熱中症予防について指示・指導をしなければならないことが示されている。

- ・顧問には、生徒を指導監督し、事故を防止するべき注意義務がある。
- ・顧問が練習メニュー、練習時間等を部員に指示し、部員が習慣的に、その指示に忠実に従って練習しているような場合は、顧問は、それぞれの部員の健康状態に支障を来す具体的な危険性が生じないよう配慮して指示・指導すべきである。
- ・練習に立ち会うことができず、部員の体調の変化に応じた監督や指導ができない場合、顧問は、部員らの健康状態に配慮し、練習を通常より軽くしたり、休憩時間を設けて十分な水分補給をさせたりするなど、熱中症に陥らないように予め指示・指導する義務がある。

また、パンフレットには、その他の6件の死亡事故事例から事故の状況などを勘案して得られる教訓が、以下のように示されている。

⁵ https://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/anzen_school/H30nettyuusyouPamphlet/h30nettyuusyou_all.pdf

表1 パンフレット「熱中症を予防しよう」に示された事故事例からの教訓

	事故事例	教訓
1	高等専門学校2年 男子 野球部 8月上旬、最高気温 35℃の晴天の中で練習後、6km 離れた宿舎までジョギングをしながら向かった。途中、歩いたり水分補給をしながら宿舎に戻った後に異常が現れ、病院に搬送したが数日後に死亡	35℃以上の環境下では運動は原則中止
2	高等学校2年 男子 ラグビー部 7月下旬、25分ハーフの試合後、日陰で20分程休憩、ミーティング、更衣、給水などをした後、60分のランニング練習に入った。途中、教師が生徒の顔色が悪いことに気づき、日陰で休ませ、病院に搬送したが翌日死亡	炎天下のランニングは要注意！
3	高等学校1年 男子 剣道部 8月上旬、剣道場でかかり稽古が終了し、正座のまま防具を外した後に横に倒れた。防具を緩め、脇の下と首の後ろを冷やし、冷房のある部屋に運び、救急搬送したが、翌日死亡	直射日光の当たらない室内でも熱中症は起こる
4	高等学校2年 男子 野球部 8月上旬、最高気温 33.5℃薄曇りで湿度は高めの中、野球部の練習に終日参加。練習メニューの変わり目毎に休憩と水分補給の時間を設けていた。学校では変わった様子はなかったが、自転車で自宅に帰宅後に急変、当日のうちに死亡	下校後に急変することもある
5	高等学校3年 男子 剣道部 8月上旬、晴天で日中30℃を越す気温の中、期末試験明けで10時半～18時頃まで練習を行った。顧問とけいこや大会について話をした後、19時頃練習を再開したところ、突然具合が悪そうにうずくまったため、横になって休むよう指示、練習終了後、公用車で病院に搬送したが、当日死亡	徐々に運動に慣らしていくことが必要
6	小学校6年 男子 遠足 10月中旬、遠足中の班別オリエンテーリングに出発後約1時間、2km程のところ、足がもつれて来たため、木陰で休ませ、水分補給等を行ったが、容体が悪化したため、救急搬送したが翌日死亡	楽しい学校行事(10月)、しかし油断は禁物

③ 「体育活動における熱中症予防 調査研究報告書」

「第2編 学校の管理下の熱中症の発生傾向」に、平成2～24年度の23年間にJSCから災害共済給付での死亡見舞金が支給された学校管理下での熱中症での死亡事故についての記載がある。ここでは、74件の体育活動(体育の授業1件、体育的行事4件、運動部活動69件)中の死亡事例が取り上げられており、これらの事例から、熱中症予防に関する課題/提言等の抽出を行った。抽出した課題や提言等は以下の通りである。

- ・運動の実施前の健康診断、実施時の体調管理など生徒個々の状況に応じた人的な安全管理
- ・運動後の健康観察にも十分に留意
- ・生徒や教職員に対する熱中症予防に対する講習会の実施
- ・運動部活動指針の改訂：練習条件の設定(例：WBGTの数値による練習メニューや練習時間)、水分補給・休憩時間、練習時間の工夫・短縮
- ・安全対策、連絡方法、指導体制、救急法等の知識の習得、危機管理の徹底

- ・個人の能力・特性・体調に応じた練習メニューの作成
- ・WBGT計の整備、熱中症対策セットを常備、製氷機や冷凍庫の設置、道場に大型扇風機を設置

2) 「学校事故対応に関する指針」に基づく詳細調査報告書の横断整理（文部科学省、令和2年3月）
本資料は、「学校事故対応に関する指針」（以下「指針」という。）に基づいて文部科学省に提出された学校事故に係る詳細調査報告書を横断的に整理したものである。

当該資料では、4件の熱中症事故事例について「事故の概要」、「事故の要因」、「調査委員会からの提言」整理されている。本調査においては、これらの事例より特に、課題/提言等を抽出した。結果は、表2に示すとおりである。

3) 生駒市内中学生熱中症事故調査結果報告書（平成29年4月）

当該事故は、平成28年8月16日（火）、生駒市立大瀬中学校運動場において、1年生男子生徒がハンドボール部の練習中（ランニング後）に意識を失って倒れ、救急搬送されたものの、翌8月17日に搬送先の病院において死亡した事例である。本事例については、上述した2)の資料に含まれているため、本報告書については、補足する内容がある場合のみ使用することとした。

4) 愛知県豊田市内小学校児童死亡事故 調査委員会報告書（平成31年2月）

当該事故は、愛知県豊田市立の小学校で、7月に校外学習に出かけた1年生男児が、学校に戻ってきてから教室で倒れ、熱中症により死亡した事例である。本事例については、上述した2)の資料に含まれているため、本報告書については、補足する内容がある場合のみ使用することとした。

5) 学校現場における熱中症事故に関わる裁判の判例

裁判になってしまった判例から、事故後の対応の難しさについて課題/提言等を抽出することとした。

表2 『「学校事故対応に関する指針」に基づく詳細調査報告書の横断整理』で整理された熱中症の事例から抽出した熱中症予防に関する提言等

事例	課題	調査委員会による提言
<p>被害者: 中学1年生の男子。ハンドボール部 発生月: 8月 状況: 午前8時すぎに登校後、給水することなく約35分間のランニングを行い、発症した。 天候等: くもり時々晴れ、気温 29.9℃、湿度 71.3%。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルや指導計画が不十分。 ・熱中症対策の研修は行われていない。 ・顧問は生徒一人一人の運動能力の配慮や水分摂取状況を把握していなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症に関する通知やマニュアルを含む学校安全に関する通知や計画、「学校事故対応に関する指針」を教員が熟知して有効に活用するため、定期的に研修等を実施し、教員の安全に関する意識を高める必要がある。 ・事故が起こった場合に備えて、体全体をすばやく冷却できる物を準備しておく必要がある。 ・天気予報および WBGT を活用し、部活動に無理のない時間設定をするだけでなく、練習場所における WBGT を定期的に測定し、活動の中止や休憩、身体の冷却、給水のタイミングを適切に判断する必要がある。 ・運動強度は生徒の自己管理ではなく、指導者が把握し適切に指導
<p>被害者: 高校1年生の男子。サッカー部 発生月: 5月 状況: ウォーミングアップ、基礎練習等で体を慣らした後、湖一周ランニング(約9.5km、40~60分コース)。あと200メートルの地点で倒れた。 天候等: 事故前日と事故当日の最高気温(28.8℃)。前の週と比較して6度程度上昇していた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の準備や注意喚起はあったがマニュアルは無く、1年生に配慮した練習計画も無い。 ・熱中症指数計を使用しておらず、熱中症リスクについて状況把握ができていなかった。 ・給水、観察体制など安全確認や注意義務が不十分。 ・校外事故防止体制、給水体制が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の能力や体力に配慮し、段階的な練習を計画する必要がある。 ・「熱中症事故防止確認シート」(教育委員会作成)を活用する。 ・活動前後の健康観察を丁寧に行わなければならない。 ・活動時に給水できる環境を整備する。
<p>被害者: 中学1年生の女子。駅伝 発生月: 8月 状況: 練習課題となっていたランニング実施中に倒れ、その後意識を失い病院に救急搬送。 天候等: 7時: 29.4℃、8時: 30.8℃であった</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症の危険性について教員に周知されていたが、十分な理解がされていなかった。 ・参加者の体力に応じた練習計画が必要であった。 ・気象条件を測定する機器が設置されていなかった。 ・複数の教員が暑さによる不快を感じていたが、練習の中止や内容の変更には及ばなかった。 ・事故発生の状況を把握していなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の応急処置に関する研修の徹底、緊急対応マニュアルの活用と研修を徹底すべきである ・気象条件を配慮した練習計画の実施、生徒の健康状態や能力に応じた練習計画の策定等に努める必要がある。 ・WBGT 測定器や AED、日陰用テント等を準備する配慮が必要である。 ・夏季の運動による熱中症予防のための機器等の準備はもとより、暑さに不安を感じた教員がいた場合には、教員間で協議・検討する意識や協働性も必要である。 ・安全や衛生に関する環境の確保について、教員が日常的に把握できるよう、常に危機管理体制に万全を期すべきである。 ・救急搬送に付き添う教員は、原則として、指導にあっていた教員または、状況を十分に把握している教員とし、正確な状況説明ができるよう努めるべきである。

事例	課題	調査委員会による提言
<p>被害者: 小学校1年生の男子。校外学習 発生月: 7月 状況: 学校から約1km離れた公園に校外学習に出発(徒歩)し、到着後、遊具等で遊んだ後学校にもどった(この間1時間30分)。当該児童は教室にもどった後体調が急変 天候等: 暑さ指数は32℃で危険レベル(31℃以上)。子供の場合は運動を中止すべき状況</p>	<p>教員が救急車に同乗した。こうした対応は、病院側や保護者に対する状況説明が不足する可能性が生じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱中症に関する教員への校内研修を実施していなかった。また、熱中症に関する情報が提供されても活かされなかった。 ・暑さ指数が危険レベルにある場合は運動を中止、ないし見直すなどの危機管理マニュアルが、不足 	<p>調査委員会による提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の全教員に熱中症についての研修を義務研修として受講させる。 ・暑さ指数に応じて運動を中止、ないし見直しをする危機管理マニュアルを作成し、全ての小中学校が遵守し運用する体制を確立する。 ・猛暑を考慮した年間行事計画を作成する。 ・暑さ指数を自動配信するシステムを構築する。

(2)「学校現場における熱中症対策ガイドライン作成の手引き(仮称)」へ盛り込むべき項目(案)

(1)で抽出した、学校現場における熱中症による事故事例から得られた課題や提言等から、「学校現場における熱中症対策ガイドライン作成の手引き(仮称)」に盛り込むべき項目(案)は以下のとおりである。

項目案は、以下の3つの段階に分けて整理した。

- ・熱中症を防ぐための取組
- ・万が一にも熱中症が発生してしまった場合の対応
- ・事故後の対応

【盛り込むべき項目(案)】

① 未然防止に向けた取組

- ・熱中症予防のためのガイドライン(運動部活動指針、指導計画等)の作成や改訂について
部活動等の指導計画に熱中症予防についての明記する必要性
 - ・使用する機材等について
WBGT計の設置、平常時から準備しておくべき対策グッズ(冷却材等)等
 - ・熱中症対策を行う上での平時の体制について
WBGTの測定値を用いて活動等を判断する際の学内の体制、先生同士の連携、生徒への伝達方法など
 - ・熱中症対策を講じる上で留意すべき点
学校全体、あるいは、個々の部活動の中での熱中症予防に対するガイドライン等以外に、個々人の能力や体調等、WBGT等の測定結果に応じた練習メニューの変更、練習時間の変更にも配慮が必要とされる。
 - 生徒個々の状況に応じた人的な安全管理(活動前、活動中、活動後の健康観察など)
 - 個人の能力・特性・体調に応じた練習メニューの作成
 - WBGTの測定値や熱中症警戒アラート発出時の練習メニュー、練習時間、休憩や水分補給の仕方
 - ・教師や生徒に向けた熱中症に関する研修や安全教育
熱中症事故防止のために、教師だけではなく、部活動に参加する生徒に対しても、熱中症に関する研修や安全教育が必要とされている。教育内容としては以下が想定される。
 - 熱中症の概要
 - 特に注意が必要な人や場面
肥満の人が熱中症に罹りやすい、ランニングにおける熱中症の事例が多いなど。
 - WBGT値を用いた活動実施の判断基準や熱中症警戒アラートの内容や活用について
⇒活動実施の判断だけではなく、練習メニューの変更等も必要になる場合がある
 - 熱中症に罹った場合の対応、応急手当方法など
 - ・部活動の雰囲気として、無理をしなくてもいいといえる環境、意識づくりの重要性
- ##### ② 発生時の対応
- ・熱中症発症の場合に備えて、マニュアル等を準備、上記の研修を通じて、適切に対応できるようになっていることが望ましい。
 - 危機管理指針の記載内容と齟齬がないように留意しながら、緊急時の連絡体制等

➤ 応急手当の方法（フロー）

③ 発生時の対応

- ・ 判例等を参考として、事故後対応の難しさ等が実感できるようなもの

④ その他

- ・ 教訓となる熱中症事故事例の紹介

事故の概要（事故時の気象状況、発症時の対応状況等）、課題、再発防止策等

熱中症事故事例(事例集)

キーワード:死亡障害種の項目で「熱中症」、障害事例の項目で「熱中症」、「脱水」、「炎天下」

出展:独立行政法人日本スポーツ振興センター 学校安全 web 学校事故事例検索データベース

(URL:<https://www.jpnspport.go.jp/anzen/default.aspx?tabid=822>)

No.	発生年度	死亡・障害	死亡障害種	学校種	被災学年	性別	場合1	場合2	競技種目	発生場所1	発生場所2	発生状況
1	H27	障害	精神・神経障害	高	1	男	課外指導	体育的部活動	野球(含軟式)	学校内・校舎外(園内・園舎外)	運動場・校庭(園庭)	野球部の練習でインターバル走をしているとき、急に高体温になり意識を失った。重症熱中症となった。
2	H29	障害	胸腹部臓器障害	高	1	男	課外指導	体育的部活動	テニス(含ソフトテニス)	学校内・校舎外(園内・園舎外)	運動場・校庭(園庭)	朝8時頃に準備のため登校し、炎天下の中9時から部活動を行っていた。およそ3時間経過後、テニスコート4面分の外周を3周ランニングし、4周目にダッシュして走り終わる直前にふらふらと倒れた。自力で起き上がろうとしたが再転倒した。目と口が開いた状態で意識がなく心肺停止状態となった。心肺蘇生を実施し、病院でICD植込みの手術を行った。
3	H29	障害	精神・神経障害	高	1	男	課外指導	体育的部活動	陸上競技(その他)	学校外(園外)	運動場・競技場	陸上の練習中、脱水症状になり気分が悪くなった。練習を続けることができなくなり、しばらく安静にした。
4	H18	死亡	熱中症	保	4	男	保育中			学校内・校舎内(園内・園舎内)	廊下	保育所内で遊び中、行方不明となり、捜索していたところ、廊下に設置してある木製柵の中で意識不明の状態で見えられた。救急車で病院搬送し、救命措置を受けたが死亡した。
5	H18	死亡	熱中症	中	1	男	課外指導	体育的部活動	バスケットボール	学校内・校舎内(園内・園舎内)	体育館・屋内運動場	当日、本生徒は体育館(3階)において、バスケットボール部の練習を行っていた。4階ギャラリーを数周走り、3分間のゲームを30分ほど行った。その後、本生徒はタイムキーパーの仕事をしていて、具合が悪いと言って交代し、水を飲んだところ嘔吐してしゃがみこんだ。顧問教諭が気づき、他の生徒に涼しいところに移動させるよう指示したが、約5分後、名前を呼んでも返事をしないと連絡があり、状況を確認後、すぐに母親に連絡を取った。数回嘔吐したので、嘔吐物が喉に詰まらないようにし、母親到着後、母親の車で医療機関へ搬送した。医療機関では、脱水症状で重い意識障害のある熱中症と診断され、集中治療室で治療が行われたが、後日死亡した。
6	H19	死亡	熱中症	中	3	女	学校行事	運動会・体育祭	短距離走	学校内・校舎外(園内・園舎外)	運動場・校庭(園庭)	運動場で全校生徒による体育大会の練習を開始し、入場行進後、移動、学級対抗リレーの打ち合せを10分間行った。その後、駆け足(ランニング)の移動、100mダッシュの後、位置に戻り整列をしている途中、前の生徒にもたれかかるように倒れそうになり、教諭が抱きかかえ座り込む状態となった。その後、呼吸が止まり少量の泡を吐いた。すぐに教諭らが人工呼吸と胸骨圧迫を開始し、AEDを装着作動させ、救急車を要請し、病院に搬送されたが死亡した。
7	H19	死亡	熱中症	中	2	男	課外指導	体育的部活動	バスケットボール	学校内・校舎内(園内・園舎内)	体育館・屋内運動場	体育館で2時間に渡ってランニング11周、ストレッチ体操、腕立て伏せ、腹筋・背筋20回×3セット、フットワーク、コースチェック、ドリブル、ダッシュ等の練習が行なわれ、途中で5~10分の給水のための休憩を2回入れた。練習終了後に片付けを終えて自分の荷物を取って体育館へ向かったときによろめいて床に倒れこんだ。応急手当と並行して救急車を要請し、病院へ搬送したが意識を回復することなく、後日死亡した。
8	H19	死亡	熱中症	高	3	男	課外指導	体育的部活動	ラグビー	学校内・校舎外(園内・園舎外)	運動場・校庭(園庭)	強化練習最終日の最後の練習メニューで、4人1組で行う1時間ランニングパスのラスト2往復の往路で、足元がふらつきだしたので、折り返しのゴールラインにいた顧問が止めに入ろうと近づく。その最中、パスを受けようとしたが失敗し、大きくふらついた。顧問教諭と後から加わった2人で本生徒を日陰に連れて行き、グラウンドの柵にもたれさせた。このとき、腕等には発汗が確認された。頭と首に水をかけ、水を飲ませようとしたが、一口飲んだ程度で、すぐに氷で首とわきの下を冷やすが座った状態で意識を失った。救急車で病院に搬送したが、後日死亡した。
9	H19	死亡	熱中症	高	1	男	課外指導	体育的部活動	ハンドボール	学校外(園外)	運動場・競技場	合同合宿中の4日目、試合等の後ミーティングをし、クーリングダウンのランニングを開始したところ、150~200m走ったあたりで倒れた。意識が不鮮明で、脈はかなり早かった。救急車が到着するまで気道を確保し、服を脱がせ、アイシングを行ない体温を下げる処置をした。病院に搬送したが、同日死亡した。
10	H20	死亡	熱中症	高	3	男	課外指導	体育的部活動	サッカー・フットサル	学校内・校舎外(園内・園舎外)	運動場・校庭(園庭)	校内合宿2日目の朝練習中、体育館でボールを使った基礎練習を実施した後、校舎外周を30分(約5km)自分のペースでランニングした後、体育館昇降口の壁に寄りかかるようにして意識を失った。救急車を要請し、病院に搬送されたが、同日死亡した。
11	H20	死亡	熱中症	高	2	男	課外指導	体育的部活動	柔道	学校外(園外)	その他	強化合宿に2日間の予定で参加していた。2日目、約50分間程度行われていた早朝トレーニングでジョギング等をした後に宿泊棟の階段付近で倒れているところを発見された。病院に搬送し処置を行うものの、人工透析のできる病院へ搬送。集中治療室で治療が続けたが、症状が回復することなく、後日死亡した。
12	H21	死亡	熱中症	高	3	男	各教科等	体育(保健体育)	サッカー・フットサル	学校内・校舎外(園内・園舎外)	運動場・校庭(園庭)	授業でサッカーを行う。グラウンド2周のジョギング・準備体操・補強運動後に5分間のゲームを行う。第1試合が敗戦で、第2試合は休憩を取る。第3試合の終了前にパスを受けようと全力で走りボールが外に出た時、四つん這いの状態になる。起きあがろうとしたが倒れる。頭部に配慮をしながら横向きに寝かせる。既往症を確認して、その後人工呼吸と心臓マッサージとAEDを使用する。救急隊が到着。ドクターヘリを要請して救急救命センターへ搬送し、救急処置を受けたが、同日死亡した。
13	H21	死亡	熱中症	高	2	男	課外指導	体育的部活動	野球(含軟式)	学校内・校舎外(園内・園舎外)	運動場・校庭(園庭)	終日の部活動に参加し、メニューは午前中にウォーミングアップ・塁間ダッシュ・捕球基本動作ドリル・キャッチボール・守備練習。12時30分から1時間の昼食休憩後、バント練習・打撃練習・素振り・ボール間走を行った。メニューの変わり目毎に休憩時間及び水分補給時間を設けていた。学校では特に変わった様子はなく自転車で下校した。一旦帰宅後、自宅前(外)で倒れたとき、本生徒のうめき声に隣人が

No.	発生年度	死亡・障害	死亡障害種	学校種	被災学年	性別	場合1	場合2	競技種目	発生場所1	発生場所2	発生状況
												気づき、119番通報され病院に搬送されたが、同日死亡した。当日の最高気温 33.5℃薄曇りで湿度は高めだった。
14	H21	死亡	熱中症	高	1	男	課外指導	体育的部活動	剣道	学校内・校舎内(園内・園舎内)	体育館・屋内運動場	合宿中に、剣道場でかかり稽古をしていた本生徒は練習が終了し、正座のまま防具を外した後に横に倒れた。反応が鈍く、すぐに防具を外し稽古着を緩めて、氷で脇下と首の後ろを冷やし頬を叩きながら呼びかけ続けた。冷房のある部屋に運び、同様の処置を続けたが、意識がはっきりしないので、救急車を要請し、病院に運ばれたが同日死亡した。
15	H21	死亡	熱中症	中	2	男	課外指導	体育的部活動	ハンドボール	学校内・校舎外(園内・園舎外)	運動場・校庭(園庭)	ハンドボール部の練習中にダッシュをしている際、水を飲ませようとしたときに本生徒の意識がなくなりかけた。直ちに全身を冷やすとともに医療機関へ搬送したが、後日死亡した。
16	H22	死亡	熱中症	高	1	男	課外指導	体育的部活動	柔道	学校内・校舎内(園内・園舎内)	体育館・屋内運動場	柔道部練習中、午後最後のトレーニング中、熱中症で倒れた。救急搬送後、病院で処置を受けるが、数日後死亡した。
17	H23	死亡	熱中症	高	1	男	課外指導	体育的部活動	投てき	学校外(園外)	運動場・競技場	8月の3日間、他の高校での合同合宿に参加していた。当日は最終日のため午前中で練習を終了予定で、終了ミーティングを行う前に、本生徒が気分が悪くなり、熱中症の様相を呈していた。すぐに顧問が応急処置をし、救急車で病院に搬送し、加療も受けるも数日後に死亡した。
18	H23	死亡	熱中症	高	2	男	課外指導	体育的部活動	野球(含軟式)	学校内・校舎外(園内・園舎外)	運動場・校庭(園庭)	6月の野球部の練習で、本生徒は100mダッシュで足がつかつたので休憩した。その後、顧問が体調を確認してから、残りの100mダッシュを再開した。生徒は足がもつれるようになり、部員に抱えられてうつぶせに倒れ込む。救急車に収容、病院に搬送後、ICUの治療を行ったが、約1カ月後に死亡した。
19	H23	死亡	熱中症	高	3	男	課外指導	体育的部活動	ラグビー	学校内・校舎外(園内・園舎外)	運動場・校庭(園庭)	ラグビーの練習中にランニングをしていた。その際に、気分不良になった。すぐに全身を冷やししながら、水分補給をし、救急車到着までに、意識が無くなったので心肺蘇生をした。病院に搬送したが、同日死亡した。
20	H23	死亡	熱中症	高	1	男	課外指導	体育的部活動	柔道	学校外(園外)	体育館・屋内運動場	他校との合同練習で、本生徒は都合により午後の部から参加。13時から始まり、準備運動、立ち技乱取りと練習メニューをこなしていった。サーキットトレーニングを開始してからしばらくして、足元がふらつき倒れそうになったので、近くの生徒が体を支え置に横臥させた。意識・呼吸・脈の確認後、救急車を要請、待機中には、気道確保・アイシング等の応急処置を行った。近くの病院に搬送されたが、改善が見られず他の病院に転院した。処置を受けるが、数日後に死亡した。
21	H23	死亡	熱中症	高	2	男	課外指導	体育的部活動	剣道	学校内・校舎内(園内・園舎内)	体育館・屋内運動場	午前9時から体操・素振り・足さばきなどをし、水分補給および休憩(約30分)を行った。練習を再開し、面打ち・切り返し・打ち込みなどが行われた。後半の練習は被災生徒が倒れるまで水分の補給や十分な休憩を行うことなく、約1時間半後に倒れた。病院に救急搬送され治療を受けたが、同日死亡した。
22	H24	死亡	熱中症	高	1	男	課外指導	体育的部活動	野球(含軟式)	学校外(園外)	道路	野球部部活動で、周辺のランニングを実施した。13時45分頃に全員で出発して折り返し地点に給水所を設け、生徒全員が給水したことを顧問教諭とマネージャーが確認した後、車で顧問がランニングコースを見回った。その後、全員が帰ってきたと思い、校内グラウンドにてミーティングを実施後、投球練習と素振り等の技術指導を行い、19時頃に解散した。翌日早朝、保護者からの連絡で、本生徒が帰宅していないことが判明し捜索願を出した。警察官、学校関係者と野球部生徒が捜したところ、ランニングをした市道路から外れた7m下の斜面で本生徒の遺体が発見された。
23	H24	死亡	熱中症	高	2	男	課外指導	体育的部活動	ラグビー	学校外(園外)	道路	顧問の指導・監督のもと、インターバルトレーニング中に気分が悪くなり意識を喪失した。直ちに病院に搬送、治療を受けるが、数日後に死亡した。
24	H24	死亡	熱中症	高	2	男	課外指導	体育的部活動	登山	学校外(園外)	山林野(含スキー場)	山岳部の月例登山で、7時30分に登山開始。途中休憩をとりながら頂上付近に到着。20分間の昼食休憩をとった後下山を開始。40分後に10分間の休憩をとった。各自が給水等を行い、再び出発し35分経過した頃、本生徒の様子がおかしいので、顧問がリュックを取り外そうとしたところ、倒れかかってきてそのまま意識不明となった。倒れる1分位前まで普通に下山しており、顧問も同行の生徒も全く異常に気付かなかった。ヘリコプターで病院に搬送され集中治療室で治療を受けるが、数日後に死亡した。
25	H25	死亡	熱中症	高	3	男	課外指導	体育的部活動	その他	学校外(園外)	運動場・競技場	他高校にて練習試合をしていた。本生徒は、初めから出場。9時30分キックオフ。10時20分ハーフタイム。10時30分後半試合開始。11時23分、第4クォーターの途中で、急に倒れた。担架で校舎の日陰に運ぶ。この時は、比較的、落ち着いていたので、脇の下に氷を入れ、部員がうちわであおいでいた。その後、突然歩きだし嘔吐した。11時36分、救急車を要請する。病院では、眠剤で寝かせて点滴投与し、経過観察をしていた。当日の夜は、体温が38度まで下がったが、容態が急変し2日後に死亡した。
26	H25	死亡	熱中症	高	3	男	課外指導	体育的部活動	サッカー・フットサル	学校内・校舎内(園内・園舎内)	体育館・屋内運動場	校内合宿2日目の朝練習中、体育館でボールを使った基礎練習を実施した後、校舎外周を30分(約5km)自分のペースでランニングした後、体育館昇降口の壁に寄りかかるようにして意識を失った。救急車を要請し、病院に搬送されたが、同日死亡した。
27	H25	死亡	熱中症	高	2	男	課外指導	体育的部活動	剣道	学校内・校舎内(園内・園舎内)	体育館・屋内運動場	午前9時から体操・素振り・足さばきなどをし、水分補給および休憩(30分)を行った。練習を再開し、面打ち・切り返し・打ち込みなどが行われた。後半の練習は被災本生徒が倒れるまで水分の補給や十分な休憩を行うことなく、約1時間半後に倒れた。病院に救急搬送され治療を受けたが、同日死亡した。
28	H26	死亡	熱中症	高	1	男	課外指導	体育的部活動	野球(含軟式)	学校外(園外)	道路	野球部部活動で、周辺のランニングを実施した。13時45分頃に全員で出発して折り返し地点に給水所を設け、生徒全員が給水したことを顧問教諭とマネージャーが確認した後、車で顧問がランニングコースを見回った。その後、全員が帰ってきたと思い、校内グラウンドにてミーティングを実施後、投球練習と素振り等の技術指導を行い、19時頃に解散した。翌日早朝、保護者からの連絡で、本生徒が帰宅していないことが判明し捜索願を出した。警察官、学校関係者と野球部生徒が捜したところ、ランニングをした市道路から外れた7メートル下の斜面で本生徒の遺体が発見された。

No.	発生年度	死亡・障害	死亡障害種	学校種	被災学年	性別	場合1	場合2	競技種目	発生場所1	発生場所2	発生状況
29	H27	死亡	熱中症	高	1	男	課外指導	体育的部活動	柔道	学校外(園外)	道路	午前中は、県強化普及練習会に参加し、寝技と立技の乱取を実施した。練習終了後、けがの有無を確認し、各自昼食をとるよう指示した。また、午後3時からランニングトレーニングを行うこととし、一時解散した。午後3時から、体操をしながら生徒の様子を観察し、寮からサイクリングコース(約1.5km)に向け、各自のペースでランニングをした後、ダッシュとジョグのインターバルトレーニングを実施した。3本目を終えたところで、本生徒が練習から離脱し休んだ。5本目終了時に自力でスタートラインに戻ってきた様子を見て、練習を切り上げて寮に帰宅する指示をした。その後、コーチがサイクリングロードで倒れている本生徒を発見した。病院に搬送後、熱射病と診断され治療を受けたが、数日後に死亡した。
30	H28	死亡	熱中症	中	1	男	課外指導	体育的部活動	ハンドボール	学校内・校舎外(園内・園舎外)	運動場・校庭(園庭)	ハンドボール部の活動中、運動場で準備運動としてランニングをしていたところ、35分走り終えたときにふらついたため、顧問が日陰に座らせ休ませたが、寝ころんでしまい、自力で給水できず、問いかけにも応えなくなった。すぐに氷で頸部や脇を冷やす等の応急処置を行った。救急車を要請、入院したが翌日死亡した。
31	H28	死亡	熱中症	高	2	男	課外指導	体育的部活動		学校内・校舎外(園内・園舎外)	運動場・校庭(園庭)	6月の野球部の練習で、100mダッシュをしているときに足がつったので、休憩した。その後、顧問が体調を確認してから、残りの100mダッシュを再開した。生徒は足がもつれるようになり、部員に抱えられてうつぶせに倒れ込む。救急車に収容、病院に搬送後、ICUで治療を行ったが、約1か月後に死亡した。
32	H29	死亡	熱中症	中	1	男	通学中	下校(降園)中		学校外(園外)	道路	学校からの下校時に自宅前路上で倒れた。意識消失、左腕けいれんあり。近隣住民の通報により救急車を要請し、病院に救急搬送された。救急車到着までの間は、ペットボトルで体を冷やすなど通報した住民らによる応急手当が行われた。その後、搬送先の病院にて治療が行われたが、一度も意識が回復することはないまま、数日後死亡した。
33	H29	死亡	熱中症	高	1	男	課外指導	体育的部活動	サッカー・フットサル	学校外(園外)	道路	部活動顧問指導の下、ウォーミングアップ・基礎練習後、ランニング(約9.5km、40分から60分コース)を行った。学校まで残り200mの付近で意識を失い倒れた。10時30分頃の気温27.5℃、湿度45%であった。事故直後、近所の方が、介抱・救急車を要請、病院に搬送された。高度医療の必要性などもあり転院し、治療を続けたが、数か月後に死亡した。
34	H29	死亡	熱中症	中	1	男	課外指導	体育的部活動	ハンドボール	学校内・校舎外(園内・園舎外)	運動場・校庭(園庭)	ハンドボール部の活動中、運動場で準備運動としてランニングをしていたところ、35分走り終えたときにふらついたため、顧問が日陰に座らせ休ませたが、寝ころんでしまい、自力で給水できず、問いかけにも応えなくなった。すぐに氷で頸部や脇を冷やす等の応急処置を行った。救急車を要請、入院したが翌日死亡した。
35	H29	死亡	熱中症	高	1	男	課外指導	体育的部活動	剣道	学校内・校舎内(園内・園舎内)	体育館・屋内運動場	合宿中に、剣道場でかかり稽古をしていた本生徒は練習が終了し、正座のまま防具を外した後に横に倒れた。反応が鈍く、すぐに防具を外し稽古着を緩めて、氷で脇下と首の後ろを冷やし頬を叩きながら呼びかけ続けた。冷房のある部屋に運び、同様の処置を続けたが、意識がはっきりしないので、救急車を要請し、病院に運ばれたが同日死亡した。
36	H30	死亡	熱中症	小	1	男	休憩時間	休憩時間中		学校内・校舎内(園内・園舎内)	教室(保育室)	2・3時間目の校外学習から学校に戻り、教室で休養していたところ、徐々に会話ができなくなり、意識不明となった。病院に搬送されたが、同日死亡した。